



★ ★ ★ ★
COLUMN

That's so American!!

ノースカロライナ州から
さまざまな医療にまつわる出来事を紹介

第9回 保険会社にサイバー攻撃（後編） ～複雑な責任の所在～

ノースカロライナ州メディケア・カウンセラー
アメリカ病院経営士会認定病院経営士 薬剤師（日本）河野圭子

米国保健福祉省は、2月に起きたユナイテッド・ヘルスケア・グループ（UHG）内のChange Healthcare（CH）ユニットに対するサイバー攻撃を、前例のない規模の大きさとコメントしています。ちなみにCHのオンライン処理件数*は、月間12.5億件です。今回は、責任の所在や今後の対応策などについてまとめてみました。

*オンライン処理件数：オンライン・レセプト請求・支払い、オンライン処方箋・支払い、各種事前承認を含む

責任の所在と現実性

今回のサイバー攻撃は、ロシアに拠点を置くブラックキャット・ランサムウェア・グループ（ブラックキャット）によるものです。昨年12月にもブラックキャットによる大手組織へのサイバー攻撃が仕掛けられましたが、連邦政府は、ブラックキャットの活動を妨害し、被害組織に暗号解除ツールを提供して身代金支払いを回避させました。

ブラックキャットは、その報復として医療組織を標的にすることを宣言し、今年2月にCHにサイバー攻撃を仕掛けました。犯行グループは特定されている一方で、被害に遭ったCHは、すべての責任を回避できるわけではありません。

連邦政府の事後調査：HIPPAがポイント

米国保健福祉省は、UHGとCHがHIPAA法を遵守していたかを調査しています。HIPAA法違反と判断されると、罰金（罰金刑）が科せられることがあります。

HIPAA連邦法とは？：健康保険の相互運用性と説明責任に関する法律

この法律には、個人情報漏えい防止と、本人の同意なしに、

個人情報の不適切な利用を防ぐ条項があります。この法律は、医療機関、保険機関、UHGとCHが該当する保険請求業務・支払いなどを行う機関が対象になります。

集団訴訟が増加

前述の調査とは別に、現時点でUHGとCHに対して24件の集団訴訟が提起されています。そのうちの13件は、個人情報漏えいを懸念する患者さんたちからであり、11件は、診療報酬の支払い停止で金銭的被害を受けた医療機関からの訴訟です。

オンラインに切り替え

CHは、サイバー攻撃を認識した時点で、すぐにオンラインにしました。理由は、CHと相互接続でつながる全米の医療機関や薬局への連鎖被害、例えば末端の医療機関からの患者個人情報漏えいリスクを抑えるためです。

CHは、オンライン請求停止の代替え案として、医療機関向け緊急ローンを開始しましたが、融資額が追いつかず、医療機関の運営に支障が出たことで訴訟になりました。現時点では、個人情報漏えい関連の訴訟は患者さんたちからであり、医療機関からは出ていません。

システム復旧期間をどう乗り切るか

医療組織のサイバー攻撃については、『医事業務』2022年3月1日号（No.620）52頁に「米国医療機関に対するランサムウェア攻撃の実態」を執筆しました。今回の件も踏まえると、医療機関や相互接続機関がサイバー攻撃に遭ったとき、システム復旧までの期間に患者治療と組織運営をいかに継続するかが共通の課題と考えます。M